

第48回 内田陽子社中

# 箏曲演奏会

■とき

平成27年5月17日(日) 午後1時 開演

■ところ

天聖寺 一階ホール(十六日町)

■賛助出演

小山内 和行(尺八)

■主催

宮城社八戸 内田陽子社中

■後援

八戸市文化協会／青森県三曲協会  
(株)デーリー東北新聞社

# 平成26年度出演のアルバムより



花紅葉  
(尺八と)

平成26年5月18日(日)  
於 天聖寺ホール



南部牛追唄による幻想曲(フルートと)



春の海  
(フルートと)

## ごあいさつ

内田 陽子



五月の太陽が若葉に映えて、美しく爽やかな季節となって参りました。

今年度も第48回目となります社中の演奏会を、毎年楽しみにお待ち下さる多くの箏曲愛好者の方々の温かいお励ましを頂きながら、開催致す運びとなりました。社中一同心より感謝申し上げます。

又、本日は大変ご多忙の中、会場迄お運び頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。

本年も、天聖寺ご住職 棟方昌恵様にご配慮を賜わり、ホールにて開催致すことが出来ますこと、深く感謝申し上げます。

又、昨年同様、尺八の小山内先生にご賛助頂き、会に花を添えて頂くことになりました。

出演者一同、日頃稽古致して参りました成果を発揮出来ます様、一生懸命演奏させて頂きたいと存じます。

日本の伝統音楽である“箏曲”は、海外にも誇るべき音楽であると思っております。

その“音色”の奥深さを追求しつつ、そして箏曲を通じての素敵な方々との出会いを大切に、これからも門下生と共に精進して参りたいと存じます。そして、微力ながら八戸市の文化向上の為に、尽くして参りたいと存じております。

皆様方におかれましては、今後共今迄同様、温かいご指導、ご支援を賜ります様お願い申し上げます。

### 《尺八・フルート》小山内 和行プロフィール

黒石市生まれ。中学3年からフルートを独学で始め、高校2年より宮本明恭氏（元N響、現国立音大教授）に師事。弘前高校卒業後、弘前大学に2年間在籍し上京。古楽器の演奏に興味を持つ。1975年、東京シティフィル管弦楽団ヨーロッパ、東南アジア演奏旅行にフルート奏者として参加。リコーダーを大竹尚之、フルートトラベルソを有田正広、両氏に師事、本格的にバロック音楽を学ぶ。88年に東京芸術大学邦楽科入学、山口五郎氏（芸大教授、人間国宝）に師事し琴古流尺八を学ぶ。現在、青森市、弘前市、黒石市でフルートを教え、演奏活動や楽器試作にも取り組んでいる。

# プログラム

## 1 砧

宮城 道雄 作曲

箏高音 内田陽子 池谷和子 工和子 中山明子  
寺沢主子 櫛桁睦子 工藤真帆  
箏低音 田中裕美子 田代希史子 川村由香 門馬道子  
竹中真弓 大下美佐子

### 解説

高音と低音による箏二重奏曲で軽快なリズムの中に古典・新作にわたっての種々なテクニックが駆使されている砧物で隅々まできれいにこなすには、かなりの力量が要る曲であり、技巧も要する作品である。

## 2 古都の詠<sup>うた</sup>

砂崎 知子 作曲

箏 寺沢主子 大下美佐子 櫛桁睦子 工藤真帆  
三絃 中山明子 川村由香 門馬道子 竹中真弓  
尺八 小山内和行

### 解説

鎌倉にゆかりの将軍、源実朝の歌を取り入れ、古都の隆盛を願う気持ちが唄われ、それに加えて三曲の繁栄を祈る気持ちが込められています。  
「鎌倉三曲協会創立25周年記念委囀曲」

## 3 三絃練習曲(本調子)

本手 田中裕美子 工藤真帆  
替手 川村由香

## 4 春の曲

二世 吉沢 検校 作曲  
松阪 春栄 補作

本手 田中裕美子 工和子 中山明子 寺沢主子  
門馬道子 櫛桁睦子 工藤真帆  
替手 池谷和子 田代希史子 川村由香 竹中真弓  
大下美佐子  
尺八 小山内和行

### 解説

「古今和歌集」春の部の和歌六首を歌詞とした、二世吉沢検校作曲の「古今組」の一つ。  
明治時代に松阪春栄が二段からなる手事及び替手を補作した。

## 5 さくら変奏曲

宮城 道雄 作曲

第一箏 内田陽子  
第二箏 池谷和子 田代希史子  
十七絃 田中裕美子

### 解説

日本古謡《さくらさくら》のメロディーをテーマとした変奏曲である。  
第一箏は、名人芸的な装飾の変奏を展開していき、第二箏と十七絃は、主として主題旋律の保持あるいは、伴奏の役である。その間、スクイ爪や割り爪などの旧来の技法はもちろん、アルペジオ・グリッサンド・トレモロ等の箏の性能を生かした種々の技法が、縦横に駆使される。変奏の各段が技法上あるいは、変奏法上の何らかの特色を示している。

6 しやつきょう  
石橋

芳沢 金七 作曲  
若村藤四郎

箏 内田陽子  
三絃 田中裕美子 池谷和子 田代希史子 工和子  
尺八 小山内和行

解説

この曲は、地唄の中でも芝居唄のもので、初代 瀬川路考が謡曲の石橋から取材して歌詞を作り、芝居唄作者の芳沢金七と若村藤四郎との合作になるものです。三下り物の大曲で前段は、胡蝶が牡丹にたむれる優艶な情景、後段は牡丹に戯れる『獅子団乱旋』の舞楽で、舞い納めるという構想です。石橋は中国の宋の衡州天台山にある石橋のことで、橋の下は数千丈という溪になっている所です。地唄古典の唄物です。

7 ロンドンの夜の雨

宮城 道雄 作曲

箏独奏 内田陽子

解説

昭和28年7月フランスのビアリッツとスペインのパンプローナの両地で、第二回国際民族音楽舞踊祭が開催され日本代表として参加し、行事のあとロンドンに遊んだ。この曲は、ロンドン滞在中にほとんど即興的に作曲したもので、作曲後ただちにロンドンのBBCから放送初演された。

～作曲者自身の解説～

「ある夜、一晚中降り続いたことがあって、その音がいかにも印象的だった。高い建物から伝わって落ちる雫を、銀色の珠のように想像した。濡れた大地を走る車の音にも情緒を感じた。

私は昔から、数多く出た英国の詩人のことなどを、よもすがら想像しながら作曲した。」

8 花

滝 廉太郎 作曲

会場の皆様方との共演



平成26年10月11日(土) 八戸市史跡根城まつり (主殿にて)



平成27年1月5日(月) 八戸市新年祝賀会 オープニング演奏  
於 八戸プラザアーバンホール

花

一、春のうららの 隅田川

のぼりくだりの 船人が

權のしずくも 花と散る

ながめを何に たとうべき

二、見ずやあけぼの 露浴びて

われにも言う 桜木を

見ずや夕ぐれ 手をのべて

われさしまねく 青柳を

三、錦おりなす 長堤に

くるればのぼる おぼろ月

げに一刻も 千金の

ながめを何に たとうべき